

## 令和2年度学校評価 自己評価計画中間評価集計結果

石川県立医王特別支援学校小松みどり分校

重点目標	具体的取組	主担当	実現状況の達成度判断基準	集計	判定	分析(結果と課題、改善点等)
1 児童生徒の自立 (1) ライフスキルを高めるとともに社会性を養う。	① 日常生活で生じる様々な問題に対して、建設的かつ効果的に対処する力を育てる。	指導課	自己表現する力が、 A：高まった B：少し高まった C：あまり高まらなかった D：高まらなかった	児童生徒 保護者 教員 計 A： 0 40.0 14.3 17.7 B： 60.0 20.0 71.4 52.9 C： 20.0 40.0 14.3 23.5 D： 20.0 0.0 0 5.9	達成 (70.6%)	A+Bが70.6%で、中間評価は達成。 個別の評価を見ると、教員の評価に比べ、児童生徒及び保護者の評価が低い。引き続き、児童生徒が自分の表現する力が高まったことを実感できるような指導の工夫を行っていききたい。
	(2) 各教科の基礎基本事項の習得と、主体的に学習に取り組む力をつける。	教務課	学校・家庭において進んで学習を、 A：毎日行った B：ほとんど毎日行った C：あまり行わなかった D：行わなかった	児童生徒 保護者 教員 計 A： 20.0 20.0 42.9 29.4 B： 60.0 40.0 57.1 52.9 C： 20.0 20.0 0 11.8 D： 0 20.0 0 5.9	達成 (82.3%)	A+Bが82.3%で、中間評価は達成。 個別の評価を見ると、児童生徒と教員の評価に比べ、保護者の評価は低い。引き続き、家庭で主体的に学習に取り組むための工夫を行っていききたい。
	(3) 家庭との連絡を密にし、児童生徒の登校意欲が高まるように努める。	③ 保護者と児童生徒の病状や生活について十分話し合い、登校につなげる。	指導課	前年度より出席日数の割合が増えた児童生徒が、 A：60%以上 B：40%以上 C：20%以上 D：20%未満	前年度より出席日数の割合が増えた児童生徒 5人 100%	達成 (100%)
2 教職員の資質の向上 (1) 教科の専門性を高め、指導力・授業力の向上に努める。	④ 児童生徒がわかりやすい授業を行うために、指導法の改善や教材研究に努める。	教務課	分かりやすい授業を行うことが、 A：十分できた B：できた C：あまりできなかった D：できなかった	教員 A： 14.3 (1) B： 71.4 (5) C： 14.3 (1) D： 0 (0)	達成 (85.7%)	A+Bが85.7%で、中間評価は達成。 それぞれの教員が、ICT機器等を活用し、児童生徒の理解を図るための工夫を行っている。後期は、A評価の割合が増えるようさらに取り組んでいきたい。
			教材の工夫や授業の分かりやすさに、 A：十分満足できる B：満足できる C：あまり満足できない D：満足できない	児童生徒 A： 40.0 (2) B： 40.0 (2) C： 20.0 (1) D： 0 (0)		

	(2) 児童生徒の理解と適切な働きかけの基盤となるカウンセリングマインドを身につける。 (3) 児童生徒一人一人の病状等に応じた登校支援に努める。	⑤ 積極的に外部の研修会等に参加し、内容を校内で周知する。	教務課	外部の研修会等に、 A：年に3回以上参加し周知を行った B：年に2回参加し周知を行った C：年に1回参加し周知を行った D：参加しなかった	教員 A： 14.3 (1) B： 14.3 (1) C： 14.3 (1) D： 57.1 (4)	未達成 (28.6%)	A+Bが28.6%で、中間評価は未達成。 今年度は、新型コロナウイルス感染症の拡大防止のため、集合スタイルの各種研修会への参加が難しい状況にある。後期は、オンライン形式の研修会への参加を図っていききたい。
		⑥ 登校が難しい児童生徒への病状等に応じた登校支援を行う。	指導課	登校が難しい児童生徒への登校支援が、 A：十分行えた B：行えた C：あまり行えなかった D：行えなかった	教員 A： 28.6 (2) B： 71.4 (5) C： 0 (0) D： 0 (0)	達成 (100%)	A+Bが100%で、中間評価は達成。 児童生徒の登校について、保護者と連絡を取り合ったり、登校時の児童生徒への学習支援を適切に行ったりすることができた。今後さらに保護者と協力し、安心して登校できる関係作りや登校意欲を高める取り組みを工夫していききたい。
3	センター的機能 (1) 医療機関及び関連機関との連携に努める。  (2) 前籍校・小中学校との連携に努める。	⑦ 医療機関や関係機関と児童生徒の病状等について情報交換を行う。	指導課	医療機関等と連携して指導が、 A：十分行えた B：行えた C：あまり行えなかった D：行えなかった	教員 A： 14.3 (1) B： 42.9 (3) C： 42.9 (3) D： 0 (0)	未達成 (57.2%)	A+Bが57.2%で、中間評価は未達成。 今年度は、新型コロナウイルス感染症の拡大防止のため、医療や関係機関等との情報交換の場を設けることが難しく、紙面での情報交換となった。後期は、電話や紙面での情報交換の密度を濃くして、連携した指導が行えるようにしていきたい。
		⑧ 前籍校と、児童生徒の前籍校への復帰について情報交換を行う。	総務課	前籍校との情報交換が A：十分行えた B：行えた C：あまり行えなかった D：行えなかった	教員 A： 0 (0) B： 42.9 (3) C： 14.3 (1) D： 42.9 (3)	未達成 (42.9%)	A+Bが42.9%で、中間評価は未達成。 今年度は、新型コロナウイルス感染症の拡大防止のため、前籍校との情報交換の場を設けることができなかった。学校公開等に来ていただき、進路等についての情報交換を行っていききたい。
4	教職員の効率的・効果的な時間管理の推進 (1) 業務終了時刻を意識して、教材研究や授業準備、校務分掌等の業務の遂行に努める。	⑨ 時間外勤務の縮減に向けて、各種会議や校務分掌等の業務の見直しを行う。	総務課	業務終了時刻を意識して校務を行うことが、 A：十分できた B：できた C：あまりできなかった D：できなかった	教員 A： 14.3 (1) B： 85.7 (6) C： 0 (0) D： 0 (0)	達成 (100%)	A+Bが100%で、中間評価は達成。 教員は、勤務時間内で業務を終えられるように取り組んでいる。引き続き、効率的な業務の遂行、行事の見直し等を行いながら、よりよい教育活動の実践を目指していく。